



Title	大阪・関西万博を経てトイレ内での生理用品設置に対する社会の意識は変化したのか：オンラインの比較調査より
Author(s)	付, 若琳; 原, 聡美; 三浦, 麻子 他
Citation	未来共創. 2026, 13, p. 161-181
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/106436
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪・関西万博を経てトイレ内での生理用品設置に対する社会の意識は変化したのか

オンラインの比較調査より

付若琳 (大阪大学大学院人間科学研究科共生学系博士後期課程)

原聡美 (大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程)

三浦麻子 (大阪大学大学院人間科学研究科・感染症総合教育研究拠点)

杉田映理* (大阪大学大学院人間科学研究科・感染症総合教育研究拠点)

要旨

「2025 年日本国際博覧会」(大阪・関西万博)の開催期間中、大阪大学ユネスコチャーム MeW プロジェクト(MeW=Menstrual Wellbeing「月経をめぐるウェルビーイング」の略)は会場内の一部トイレに生理用品を設置するなどの活動を行った。本研究は、それらの活動が「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げる万博を通じて、トイレ内生理用品設置に関する人々の意識に及ぼした変化を明らかにすることを目的に実施した。万博の開幕直後と閉幕直後にそれぞれ約 1,000 人を対象としたオンライン調査を実施し、万博の前後および来場経験の有無で、認識の差異を検討した。その結果、万博の前後では生理用品無償提供を目にした人が増加していた。また万博来場経験の有無ではトイレ内生理用品設置に賛成する割合、月経衛生対処とジェンダー平等を関連づけて認識する割合に差がみられた。さらに X (旧 Twitter) および Threads における投稿分析を行ったところ、万博におけるトイレ内生理用品設置に対して、利便性や安心感を示す声に加え、ユーザー間で設置場所等の情報を共有する投稿が確認された。以上より、万博におけるトイレ内生理用品設置は一時的な設備導入にとどまらず、来場者の意識に一定の変化をもたらした可能性が示唆された。

目次

1. 背景と目的
2. 先行研究の検討
 - 2.1 社会実装の実験場としての「万博」
 - 2.2 公衆 / 公共トイレにおける月経衛生対処と生理用品設置の動向
3. 方法
 - 3.1 調査 A : 2 回のオンライン調査
 - 3.2 調査 B : X (旧 Twitter) と Threads における動向調査
4. 結果
 - 4.1 調査 A : 2 回のオンライン調査の結果
 - 4.2 調査 B : SNS における動向調査の結果
5. 考察
6. 本研究の結論

キーワード

大阪・関西万博
生理用品設置
トイレ
ジェンダー平等

* : ellisugita.hus@osaka-u.ac.jp

1. 背景と目的

2025年4月13日から10月13日にかけて、大阪において「2025年日本国際博覧会」(大阪・関西万博)が開催された。国際博覧会は、1851年にロンドンで開催された第1回万国博覧会以降、各国が文化や新しい技術を紹介し、未来の世界についてビジョンを示す国際交流の場として機能してきた(World-guide.jp 2025)。各万博ではテーマが設定されるが、大阪・関西万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げ、万博が社会課題について検討する未来社会の実験場として位置づけられた(大阪博覧会協会 2025)。

社会課題の1つにジェンダー平等の実現があることは言うまでもないが、近年、ジェンダー平等に関連して月経対処支援が社会課題として認識されている(Sommer & Sahin 2013; 杉田 2019)。国際的には、SDGsのモニタリング項目として月経に関する指標が含まれるようになった(JMP 2024)。日本でも、コロナ禍で「生理の貧困」¹という言葉が広く認識されるようになり、地方自治体等による生理用品の無償提供事業が実施される現象が見られた(内閣府男女共同参画局 2024)。トイレ内の生理用品無償提供の取り組みは、日本では2021年以降、学校を中心に徐々に広がってきてはいるものの、まだ社会で普及しているとは言い難い。

大阪大学ユネスコチェア MeW プロジェクトでは、2021年から「月経をめぐるウェルビーイングのための社会デザイン (Menstrual Wellbeing by/in Social Design)」を目指したアクション・リサーチを展開してきた。トイレ内の生理用品無償提供の仕組みづくりがテーマの1つであり、トイレ内に設置可能な生理用品のディスペンサーを産学連携で開発している。このMeWディスペンサーは、ユーザーが生理用品を選択できるようにナプキン2種とタンポンが入る構造で、組み立て式の段ボール製でできている(写真1)。MeWプロジェクトでは、大阪大学内のトイレ内生理用品設置事業(D&Iセンター 2022)の提案・支援を行うとともに、他団体と連携して日本の教育機関や自治体等へのMeWディスペンサーの普及や啓発活動を行ってきた(杉田・山田 2024; MeWプロジェクト 2025)。



写真1. MeWディスペンサー

MeWプロジェクトでは、今後さらに、トイレ内での生理用品無償提供を社会に広げることを検討するために、未来社会をデザインする実験場である大阪・関西万博に参加することとした。まず、4つのイベントに参加したが、テーマはいずれも「だれもがトイレ内で生理用品をとれる社会を！」とした。4つとは、①4月にウーマンズパビリオンでのシンポジウム・ワークショップの開催、②テーマ・ウィーク＜未来への文化共創ウィーク＞への参加（6月から①の動画配信）、③8月にTEAM EXPO パビリオン（TEP）での展示ブース出展とワークショップ開催、④9月に阪大万博Dayで展示ブース出展である。また10月にいのち会議が発表した「いのち宣言」のアクションプランの1つとしてMeWプロジェクトの活動が紹介された（いのち会議 2025）。さらに、協賛企業とパビリオンの協力を得て万博会場内の9か所（うち3か所は一般来場者も利用可能、他はパビリオンスタッフ用）のトイレにMeWディスペンサーを設置し、生理用品の無償提供が実施された。こうした万博における取り組みは、

マスコミでも取り上げられてその対応を行った（新聞2回、テレビ1回、ラジオ2回）。加えて、筆者らは大阪・関西万博の開催期のはじめとおわりに、トイレ内での生理用品設置についての調査を実施した²。

本稿の目的は、大阪・関西万博を経て、トイレ内での生理用品設置について、社会の意識に変化があったのかを検討することである。調査は、万博開幕直後の2025年4月下旬と閉幕直後の10月下旬に、それぞれ約1,000人を対象にオンライン質問票調査を実施し、この2つの時点および来場経験の有無による比較を行った。加えて、会期中の万博の生理用品の提供に関するXおよびThreadsも併せて分析、検討を行った。

2. 先行研究の検討

2.1 社会実装の実験場としての「万博」

万博自体は過去に何度も開催されてきたものの、その意義や役割は開催時期ごとの社会的背景や政策的文脈によって大きく異なっている。2025年大阪・関西万博は新しい事業やプロジェクトを実社会に導入・検証する「社会実装」の場として位置づけられており、新規の科学技術や事業がいかに社会に受容され、定着していくのかを分析する重要な切り口を提供するものと考えられた(岸本 2025)。

しかし、既存の万博に関する研究を概観すると、その多くは開催による経済波及効果、消費拡大、観光需要の創出といった経済的インパクトに焦点が当てられてきた(神頭・長橋 2002; 小川 2025; 宮本 2025)。都市ブランドの向上や国際的認知度の上昇といった側面は取り上げられているものの、「社会的インパクト」を検討した研究は、現在のところ限定的である。とりわけ、万博という一時的かつ象徴的なイベントが、一人ひとりの認識や行動、さらには日常的な公共サービスに対する受容や要望にどのような影響を及ぼすのかを体系的に分析した研究はほとんど見当たらない。

2.2 公衆/公共トイレにおける月経衛生対処と生理用品設置の動向

万博のように一定の期間に多数の人が特定の場所に集中する大規模イベン

トにおいて、トイレはイベント全体の印象や来場者の満足度に直結する重要な設備である。そのため、イベント時のトイレは単なる補助的設備ではなく、設置数量に加え、利便性、快適性に配慮し、多用途に対応することが求められている（寅 2015）。2025 年大阪・関西万博は、会期中に約 2,820 万人の来場者が見込まれた大規模な国際イベントであり（2025 年日本国際博覧会来場者輸送対策協議会 2024）、円滑な運営のためには、快適に利用できるトイレの質と数の確保が不可欠であったと考えられる。

公共空間における月経に対する配慮の実態を把握する試みとして、近年、月経フレンドリーな公衆/公共トイレ（Menstrual Friendly Public Toilets: MFPT）という概念が提示されている（Sommer & Sahin 2013）。関連する先行研究では、月経対処に必要なプライバシー、安全性、清潔性、生理用品の提供およびその廃棄設備といった複数の要素を含む包括的な評価指標を構築し、それに基づいて公衆/公共トイレの整備状況を都市横断的に評価している。複数都市を対象とした国際比較調査では、都市部において公衆/公共トイレの整備が一定程度進展している一方で、いずれの都市でも MFPT の整備状況は十分とは言えず、とりわけ生理用品提供の欠如、廃棄設備の未整備、有料トイレによる利用障壁などの課題が明らかとなった（Nguyen et al. 2025）。さらに、公衆/公共トイレに関する最新の政策情報や運営方針が必ずしも公開・体系化されておらず、月経に関するニーズを明確に反映した施策が欠如している点も課題として挙げられている（Blake et al. 2025）。

このように、MFPT をめぐる先行研究は、インフラ整備の評価という物理的側面と、月経をめぐるスティグマやジェンダー平等といった社会的アジェンダの双方から議論が進められており、公衆/公共トイレの状況を検討する上でも重要な視座を提供している。世界的に、公衆/公共トイレにおける月経対処への配慮が不足しているという共通の課題が存在しているといえよう。

一方で、公共空間における生理用品の無償提供は、近年各国で急速に拡大している取り組みであり、一定の成果を上げている（Wall 2020; Barrington et al. 2021）。日本においては、生理用品の無償提供は一部の地方公共団体によって開始され、自治体による学校や公共施設での常設設置も社会的な施策として広がっている（内閣府男女共同参画局 2024）。また、一部大学ではキャンパ

ス内のトイレに生理用品の設置・配布を試行する取り組みも見られ、学生が気軽に利用できる環境づくりが進められている。

このような実践の広がりを背景として、公共空間における生理用品の提供方式、利用実態とその課題について検討する研究も散見される(森 2022; 沢田 2024; 松本 2023; 阿部・堀野 2024)。これらの検討は、学術研究に限らず、企業、自治体、学生団体などの多様な主体による実践報告としても蓄積されつつある点に特徴がある。とりわけ、学校・公共施設における生理用品無償提供の導入効果を検討した研究では、利用者の安心感の向上、急な月経への対処負担の軽減などが確認されており、生理用品の無償提供が月経に関する心理的・社会的障壁を低減させる可能性が指摘されている(沢田 2024; 阿部・堀野 2024)。

国内外における先行研究の動向や取り組みを踏まえると、2025年大阪・関西万博における生理用品のトイレ内無償提供は、未来社会の「当たり前」をデザインする試みであると同時に、社会の意識に変化をもたらす契機として捉えることができるのであろう。万博は新たな社会的なあり方や期待値を提示する実験的空間であるため、本研究では、万博の前後でトイレ内での生理用品設置に対する社会の意識や受容性がどのように変化するかを明らかにすることとした。

3. 方法

本研究では2回のオンライン調査(調査A)に加えて、SNSのテキスト収集・分析(調査B)を行った。

3.1 調査A: 2回のオンライン調査

3.1.1 調査Aの目的

大阪・関西万博の開幕直後と閉幕直後で、あるいは来場の経験が、月経およびトイレ内生理用品設置に対する認識に及ぼす差異を明らかにするため、量的な比較分析を行うこと。

3.1.2 調査手順

オンライン質問票を用いた調査を2回実施した。第1回調査を大阪・関西万博の開幕直後（2025年4月24日）、第2回調査を閉幕直後（2025年10月29日）に行い、データ収集にはオンライン調査プラットフォームであるPureSpectrum(<https://www.purespectrum.com/>)を利用した。対象者へは調査票の冒頭にて本調査の目的と概要、個人情報の厳守を説明した上で参加の同意を求めた³。PureSpectrumには回答完了者1人あたり1ドルを支払った。回答完了者は登録している調査会社から参加報酬を受け取っているが、その額は調査会社により異なり、把握できない。

3.1.3 対象者

成人約2,000人（第1回と第2回調査で各1,000人）を対象とした。割り付け条件は年齢（18-29歳、30代、40代、50代、60代以上で均等割り付け）、性別（男性と女性で2:8）、居住地（近畿地方を全体の半数、それ以外は各地域の人口比で按分）にて設定し、第1回調査の回答者は第2回調査の対象者から除外した。

3.1.4 質問項目

対象者の属性情報として、年齢、居住地域はPureSpectrumの登録情報から、自認する性別は質問票項目から収集した。月経に関する項目として、月経の経験（半年以内に経験した、以前はあったが半年以内には経験していない、月経/生理を経験したことがない、その他/回答しない）を設けた。

生理用品無償提供に関して、これまでに生理用品の無償提供を見た経験の有無およびその種別を尋ねた。また「トイレ内に生理用品を設置した方がいいと思いますか」という質問を設け「とてもそう思う」～「全くそう思わない」の5件法で回答を求めた。加えて、トイレ内での生理用品設置に関する意見を自由記述式で収集した。また「月経/生理に対処しやすい社会になることは、ジェンダー平等（性別に関わらず、安心して生活できる社会）に貢献すると思いますか」という質問を設け、「とてもそう思う」～「全くそう思わない」の5件法で回答を求めた。

3.1.5 分析方法

対象者の属性と万博来場回数について記述統計量を算出した。

月経/生理に関する3項目「生理用品の無償提供を見たことがあるか」「トイレ内の生理用品の設置に賛成するか」「月経/生理に対処しやすい社会はジェンダー平等に貢献するか」について、第1回調査(万博開幕直後)・第2回調査(万博閉幕直後)の2群、ならびに第2回調査において、万博への来場経験のあり(1回以上)・なし(0回)の2群に分け、関連を検討した。各項目について、「生理用品の無償提供を見たことがあるか」は「あり」群と「なし」群に分類した。「トイレ内の生理用品の設置に賛成するか」および「月経/生理に対処しやすい社会はジェンダー平等に貢献するか」の2項目について、各々「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答した群を「賛成」群とし、「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答した群を「それ以外」の群に分類した。群間の関連の検討にはカイ二乗検定を用いた。有意水準はボンフェローニ補正を行い、3回の検定に対して0.017未満に設定した。

第2回調査の対象者に関してトイレ内の生理用品設置に関する自由記述欄の意見の分析を行った。自由記述データについては、全記述内容を通読した上で、来場経験の有無による記述傾向の差異に留意しつつ、主旨に基づいて分類して意見を整理した。

3.2 調査B:X(旧Twitter)とThreadsにおける動向調査

3.2.1 調査Bの目的

大阪・関西万博の一部のトイレにおけるMeWディスペンサーを使用した生理用品設置について、社会の反応を把握すること。

3.2.2 調査手順

調査媒体としてXとThreadsを選択した理由は、いずれも代表的なSocial Networking Service(以下SNS)の1つであること、単語・熟語での検索が容易であることである。分析対象期間は大阪・関西万博の開催期間である2025年4月13日から同年10月13日までの投稿とし、筆者らが随時検索し投稿デー

タの収集および整理を行った。対象言語は日本語、検索キーワードは「万博」を固定し、「生理」「月経」「生理用品」「ナプキン」「タンポン」「MeW」の各語を1つずつ組み合わせた。

4. 結果

4.1 調査A：2回のオンライン調査の結果

4.1.1 万博開幕直後/閉幕直後および来場経験の有無による認識の比較

第1回調査(万博開幕直後)では1,037人、第2回調査(万博閉幕直後)では1,025人の合計2,062人が回答した。回答所要時間が45秒未満の人を除いた2,022人を分析対象とした。なお、45秒未満の回答所要時間は、質問票に真摯に回答する時間としては短すぎると筆者らが判断し、恣意的に設定した数値である。

表1は第1回、第2回調査で分析対象とした回答者の属性である。全ての項目において、2回の調査についてカイ二乗検定を行った結果、有意な関連はなく、属性の差は認められなかった。

図1は第2回調査の回答者に対し、大阪・関西万博への来場回数を尋ねた結果である。回答した1,010人の内、3分の2以上である722人が「1回も来場していない」と回答した。一方で、約5人に1人は「1回だけ来場した」と回答し、2回以上来場したと答えたのは10%であった。地域別の来場経験率は、近畿地方(n=501)の対象者では41.9%、近畿地方以外(n=509)では15.3%であり、カイ二乗検定で居住地域と来場経験の有無に有意な関連が見られた($p<0.001$)。

表2は第1回調査(万博開幕直後)と第2回調査(閉幕直後)の2群でトイレ内の生理用品設置と月経とジェンダーに関する認識を比較した結果である。調査時期と生理用品無償提供を見た経験との間に有意な関連が認められ、大阪・関西万博の閉幕直後の回答者は開幕直後の回答者と比較して「生理用品の無償提供を見たことがある」と答えた割合が高かった。その一方で、「トイレ内の生理用品設置」および「月経/生理に対処しやすい社会はジェンダー平等に貢献する」かの賛否については、万博開幕時と閉幕時で有意な差は見られなかった。

表1. 回答者の属性 (n=2,022)

		第1回調査 万博開幕直後		第2回調査 万博閉幕直後	
		n	%	n	%
自認する性別	女性	788	77.9	776	76.8
	男性	218	21.5	225	22.3
	それ以外 / 答えたくない	6	0.6	9	0.9
月経の経験	現在あり	454	44.9	460	45.5
	現在なし (過去に1度以上あり)	316	31.2	307	30.4
	なし (今までで一度もなし)	179	17.7	194	19.2
	その他 / 回答しない	63	6.2	49	4.9
年齢	20代	189	18.7	195	19.3
	30代	203	20.1	204	20.2
	40代	207	20.5	202	20.0
	50代	204	20.2	204	20.2
	60代以上	207	20.5	205	20.3
居住地域	近畿地方	487	48.1	501	49.6
	それ以外	525	51.9	509	50.4
		n=1,012		n=1,010	

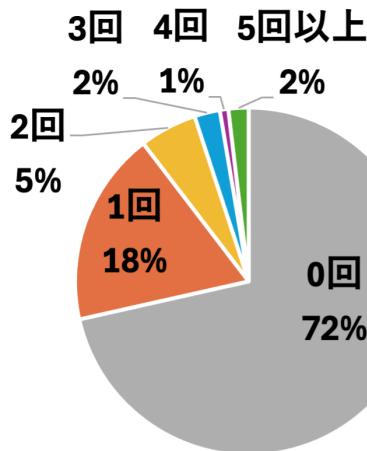


図1. 大阪・関西万博への来場回数 (n=1,010)

表2. 万博前後での比較

		全体 n(%)		第1回調査 (万博開幕直後) n (%)	第2回調査 (万博閉幕直後) n (%)	$\chi^2(df)$	p 値 *
生理用品の 無償提供を 見たことが ある (n=1,938)	はい	796(39.4)		315(33.9)	481(47.6)	37.4(1)	<0.017
	いいえ	1,142 (56.5)		613 (66.1)	529 (52.4)		
トイレ内の 生理用品の 設置に賛成 する (n=2,000)	とてもそう思う	612(30.3)	賛成			1.16(1)	ns
	ややそう思う	706(34.9)		641 (64.7)	677 (67.0)		
	どちらとも 言えない	476 (23.5)					
	あまりそう 思わない	129 (6.4)	それ 以外	349 (35.3)	333 (33.0)		
	全くそう 思わない	77 (3.8)					
月経/生理 に対処しや すい社会は ジェンダー 平等に貢献 する (n=2,022)	とてもそう思う	515(25.5)	賛成			3.33(1)	ns
	ややそう思う	785(38.8)		631 (62.4)	669 (66.2)		
	どちらとも 言えない	561 (27.7)					
	あまりそう 思わない	95(4.7)	それ 以外	381 (37.6)	341 (33.8)		
	全くそう 思わない	66(3.3)					

* ボンフェローニ補正後

表3では第2回調査の回答者のみを対象に、大阪・関西万博来場経験の有無と月経、トイレ内での生理用品設置に関する認識を比較した。3つの項目全てにおいて来場経験の有無との間に有意な関連が認められた。来場経験のある人は経験のない人と比べ、生理用品の無償提供を見た経験のある割合、トイレ内の生理用品の設置に賛成を示す割合、「月経/生理に対処しやすい社会はジェンダー平等に貢献するか」という質問に賛成を示す割合が高かった。

4.1.2 万博来場経験の有無別のトイレ内生理用品設置に対する意見

次に、トイレ内の生理用品設置に関する自由記述欄の意見の分析を行っ

表3. 万博来場経験の有無での比較 (n=1,010)

		全体 n(%)		経験あり n(%)	経験なし n(%)	$\chi^2(df)$	p 値 *
生理用品の 無償提供を 見たことが ある	はい	481(47.6)		159(55.2)	322(44.6)	9.29(1)	<0.017
	いいえ	529(52.4)		129(44.8)	400(55.4)		
トイレ内の 生理用品の 設置に賛成 する	とてもそう思う	321(31.8)	賛成	213(74.0)	464(64.3)	8.75(1)	<0.017
	ややそう思う	356(35.2)					
	どちらとも 言えない	250(24.8)	それ以外	75(26.0)	258(35.7)		
	あまりそう 思わない	52(5.1)					
	全くそう 思わない	31(3.1)					
	とてもそう思う	262(25.9)	賛成	219(76.0)	450(62.3)	17.32(1)	<0.017
月経 / 生理 に対処しや すい社会は ジェンダー 平等に貢献 する	ややそう思う	407(40.3)					
	どちらとも 言えない	278(27.5)	それ以外	69(24.0)	272(37.7)		
	あまりそう 思わない	38(3.8)					
	全くそう 思わない	25(2.5)					

* ボンフェローニ補正後

た。第2回調査の対象者1,010人のうち、677人(万博来場経験のある人196人、万博来場経験のない人481人)から回答が得られた。その結果からは、トイレ内での生理用品設置に対して、いずれの群においても支持する意見が多数であったものの、万博来場者は、より体験に根差した回答をしている傾向が見られた。例えば、「確かに施設に設置されているときにお世話になったことがあるので、助かった」といった実体験に基づく記述が見られたほか、「突然生理がくる時にあると助かる」「急にはじまるので、持ち合わせがなく困ることがあるから」など、現実の生活場面に即した生理用品設置の利便性を反映する声が多かった。

一方、非来場者による意見は、支持的であっても社会課題への配慮に基づ

く観念的な評価が中心であった。「経済的に厳しい人の力になれるようにできるだけ無償で提供してほしい」のように、トイレ内での生理用品無償提供を、経済的理由により生理用品の入手に困難を感じている人々への支援として捉える記述が確認された。また、「生理は恥ずかしいものではないし、性別に関係なく、理解をするべきものだと思う。なので、生理用品がトイレ内で設置されることは、全ての人が快適に、平等に生活するために重要なことだと思う」のように、トイレ内での生理用品設置を公共空間における平等性や包摂性を確保するための社会的取り組みとして評価し、価値理念に基づく理解を示す記述が見られた。

さらに、運営管理についても多くの意見が出された。特に非来場者において、大量に持ち出す人がいることなどへの懸念を指摘した記述が多かった。その他、生理用品の衛生面への不安や、「いたずら」といった管理上の課題を挙げる記述も確認された。さらに、生理用品の費用に関しては、無償あるいは有償にすべき、資金源への懸念など多様な意見が見られた。

4.2 調査B: SNSにおける動向調査の結果

万博における生理用品に関する投稿の多くでは、来場者はMeWディスペンサーを実際に見た体験をシェアするとともに、来場者どうしが利用可能な場所を把握できるように、設置されている具体的なトイレや生理用品の残量についての情報共有も行われていた。具体的には、「万博の残念石トイレ、生理用品が置いてあった」のような投稿が見られた。

トイレ内での生理用品設置という取り組みに対する好意的な意見が広く存在することも確認された。例えば、「ナプキンとかも置いてあって女性にとっても優しい御手洗でした」「有難い取り組みだ」「これが未来のトイレかあーって更に感動した」などの声があった。また、会場内で実際にMeWディスペンサーを使用した来場者の投稿では、「万博会場入ってすぐ生理が来てしまい…（中略）入ったトイレに無料で使ってくださいのナプキンもタンポンもあって、結構本気で泣きそうになった、ありがたい」といった具体的な体験談が含まれている。

また、8月13日夜に、万博会場に直結する鉄道の電気系統のトラブルで約

3万人が一晩中会場内に足止めされた際にも、ヘルスケアパビリオンが開放されている情報とともに、「お手洗いには生理用品も置いてくれました」と、生理用品の設置に関する投稿があった。この投稿は20万回以上表示、64回リポストされ、関心の高さが示された。

さらに、一部の投稿では、MeWディスペンサーがナプキンだけでなく、タンポンも提供していることが言及されている。これにより、利用者は自分のニーズに応じて複数の選択肢から生理用品を受け取ることが可能である点が報告されている。

5. 考察

本稿では、大阪・関西万博を経て、トイレ内での生理用品設置について、社会の意識に変化が生じたのかを検討した。これは、万博という催事が新しい技術や価値を未来社会に導入・検証する「社会実装」の場となっている(岸本 2025) ことを実証する意義も包含している。万博の経済的インパクトについての研究(神頭・長橋 2002; 小川 2025; 宮本 2025)に比して、まだ蓄積の少ない社会的インパクトを検討することを本研究は試みた。

調査は、万博開幕直後の2025年4月下旬と閉幕直後の同年10月下旬に、それぞれ約1,000人を対象としてオンライン質問票調査を実施し、万博のはじめとおわりおよび来場経験の有無による意識の差異について分析を行った。その結果、まずトイレ内での生理用品の設置を実際に目にした経験を有する割合は、万博開幕直後と閉幕直後の約6か月間で、33.9%から47.6%に有意に増加していた。また、万博閉幕直後の調査結果でも、生理用品の設置を見た経験を有する割合は、非来場者と比して万博来場者は、44.6%対55.2%と高かった。

一方で、トイレ内での生理用品設置に賛成する割合は、万博開幕直後と閉幕後の比較では、有意な増加は認められなかった。しかし、万博来場経験の有無で比較すると、トイレ内での生理用品設置に賛成する割合は、万博来場経験のない人は64.3%であるのに対し、来場経験のある人は74.0%と有意に高かった。これは単に6か月の時間経過に伴う社会意識の変化ではなく、万

博への来場経験が、トイレ内での生理用品設置に対する意識に影響を及ぼしたことを示唆している。すなわち、万博会場で実際にトイレ内での生理用品の無償提供を目にし、または体験することによって、その有用性や意義が具体的な生活場面と結びついて理解され、賛成態度が形成・強化されたと推察することが可能であろう。

こうした統計的傾向は、自由記述で確認された具体的な意見とも整合している。本調査のトイレ内での生理用品設置に関する自由記述は、万博来場者と非来場者のいずれにおいても共通している一方で、万博来場者は、実際に生理用品が設置されている環境を体験したことにより、急な月経への対応や日常生活における利便性といった、具体的かつ生活に即した観点から評価を行っていたと考えられる。例えば賛成理由として、トイレ内での生理用品設置は緊急時における安心感につながっていることが挙げられた。それに対し、非来場者による賛成意見は、経済的困難への配慮やジェンダー平等といった理念に基づく理解を示す傾向が見られた。一方、反対理由としては「衛生面への不安」や「いたずら」などが挙げられた。先行研究においては、生理用品設置が利用者の安心感の向上や急な月経に対応する負担の軽減といった有用性が示されている（沢田 2024; 阿部・堀野 2024）。先行研究で指摘された生理用品設置の効果は、本研究においても見られた。加えて本研究は、万博来場経験の有無を比較することで、実際に生理用品が設置された環境を体験することが、理念としての賛成を、生活実感を伴った理解へと深める可能性を示唆している。

また、この点は、Xの投稿分析の結果からも補強される。万博来場者が発したと推定される投稿の中には、「ありがたい取り組み」「トイレの中に生理用品が常設していた。これが未来のトイレかとさらに感動した」といった肯定的な言及が見られ、万博における生理用品無償提供がポジティブに受け止められていたことがわかった。

さらに、「月経/生理が対処しやすい社会がジェンダー平等に貢献するか」という質問について、万博来場経験のない人では賛成率が62.3%であるのに対し、来場経験のある人では76.0%と有意に高かった。MFPTに関する先行研究に見られるように、月経に衛生的に対処するために、公共/公衆トイレにお

いて無償または低価格で清潔な生理用品にアクセスできることが重要な条件として位置づけられている (Nguyen et al. 2025)。すなわち、生理用品がトイレ内に常時設置され、誰もが必要なときに利用できる環境整備は、月経/生理が対処しやすい社会の形成に資すると考えられる。女性の月経に関するニーズへの対応は、グローバルヘルスとジェンダー平等の推進に不可欠であると言われている。(Hennegan et al. 2019)。万博来場者において「月経/生理が対処しやすい社会はジェンダー平等に貢献する」と考える割合が有意に高かったことは、日本でもトイレ内における生理用品設置を、ジェンダー平等の実現に資する社会的取り組みとして捉える土壌が形成されつつあることを示唆している。こうした認識は、今後、トイレ内での生理用品設置の普及や制度化を後押しする要因となると期待できると考えられる。

6. 本研究の結論

以上の結果から、大阪・関西万博におけるトイレ内での生理用品の設置およびMeWプロジェクトのイベントを通じた啓発活動は、単なる一時的な催事にとどまらず、来場者の意識変化に一定の影響をもたらした可能性が示された。具体的には、トイレ内での生理用品設置の社会的意義への理解を促し、その取り組みへの賛成意識を高めたと考えられる。

なお、本研究の限界として、以下3点が挙げられる。1点目は、調査Aに関して、第1回調査と第2回調査の回答者は異なるため、調査の性質上、因果関係推定ができない点である。2点目は、調査Aは大規模調査である特性上、質問項目を最小限に設定する必要がある、対象者の背景情報を十分に把握することができなかった点である。そのため、万博来場経験のある人となない人の間で属性の差が存在する可能性が否定できなかった。今後同様の調査を行う際は同じ対象者に取り組みの前後において縦断的な調査を行うことで変化や背景情報の違いをより明確にとらえることができるだろう。また、3点目は調査Bに関して、調査対象としてSNSを選択したことによって、積極的に発信された意見のみが可視化され、解釈に偏りが生じた可能性がある。トイレ内での生理用品の設置に関する社会の意識については、多様な背景を持つ対象者に

インタビューを実施して質的なデータも得ていくことが有用だと考えられる。

注

- 1 「生理の貧困」については多様な定義が存在するが、「経済的な理由で生理用品を購入できない」(厚生労働省 2022)状況が中心的な問題とされる。
- 2 本研究の調査は、大阪大学感染症総合教育研究拠点(CiDER)の日本財団基金による助成を受けた。またMeWプロジェクトの大阪・関西万博におけるトイレ内の生理用品設置事業については、大阪ヘルスケアパビリオン、飯田グループ×大阪公立大学共同出展館、パナソニックグループ・パビリオン、NTTパビリオン、電力館、ガスパビリオンなど8つのパビリオン、および日本国際博覧会協会が運営する「残念石のトイレ」のご協力を得ることで実現した。協賛企業である株式会社日本電商による支援があってこそ、生理用品の無償提供が実現した。また、MeWプロジェクトとしてのイベント等への参画には、大阪大学万博推進室の新藤教授、大阪大学企画部ダイバーシティー推進課、大阪大学人間科学研究科附属未来共創センター、そしてMeWプロジェクトの学生メンバーの多大なる支援で実現したことを記す。
- 3 本研究は、大阪大学大学院人間科学研究科共生学系研究倫理委員会の承認を得て行われた(承認番号 OUKS25007)。

参考文献

阿部立夏子・堀野陽子

- 2024 「東北大学附属図書館工学分館における生理用品提供（試行）についての中間報告」
『東北大学附属図書館調査研究室年報』 11: 103-109。

いのち会議

- 2025 「いのち宣言アクションプラン」
<https://inochi-forum.org/declaration-articles/4-2-2/> (2025/11/20 アクセス)

小川雅弘

- 2025 「大阪万博の経済効果—アジア太平洋研究所推計によせて」『大阪経大論集』 75(5): 63-71。

大阪博覧会協会

- 2025 「【EXPO2025開幕】万博ってそもそも何？会場に行く前に知っておきたい万博の目的や過去の万博などまとめ！」
https://expo-guide.net/archives/73810#index_id1 (2025/11/20 アクセス)

神頭広好・長橋透

- 2002 「訪日海外旅行者がもたらす愛知万博の愛知県に対する経済効果—わが国3大国際空港の観点から—」『日本観光学会誌』 41: 11-18。

岸本充生

- 2025 「新しいアイデアの社会実装として見た大阪・関西万博：顕在化したギャップを何が
つないだのか」『ELSI NOTE』 64: 1-23。

厚生労働省

- 2022 「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」の結果を公表し
ます」
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24693.html (2025/11/20 アクセス)

沢田直美

- 2024 「こうすれば、"みんな"で考えられる！—職場への生理用品設備の導入プロセスと
しての対話の重要性と2つの工夫—」『人工知能学会第二種研究会資料』 2023(CCI-
012): 33-40。

杉田映理

- 2019 「月経衛生対処 (MHM) の開発支援および研究の動向」『国際開発研究』 28(2): 1-17。

杉田映理・山田陽子

- 2024 「実践から共創を考える」『未来共創』 12: 115-136。

寅太郎

- 2015 「イベントと仮設トイレ」第五章 排泄に関わる施設と経済、日本トイレ協会編『トイ
レ学大事典』 pp. 133-134、東京：柏書房。

内閣府男女共同参画局

- 2024 「生理の貧困」
<https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/kenko/periodpoverty/index.html>
(2025/11/20 アクセス)

松本拓朗

- 2023 「第6章 生理用品の無料配布における最適な手法の検討」伊達平和・堀兼大朗編『滋
賀大学データサイエンス学部令和4年度社会調査実践演習報告書』 pp.42-51、滋賀：
滋賀大学データサイエンス学部 伊達平和研究室。

宮本勝浩

- 2025 「大阪・関西万博の経済効果とこれからの大阪経済」『セミナー年報』 2024: 163-174。

森旬子

- 2022 「生理用品の提供場所をあらわすピクトグラムの開発と中部国際空港内への設置に
ついて」『芸術工学への誘い:名古屋市立大学大学院芸術工学研究科紀要』 27: 81。

D&I センター（大阪大学ダイバーシティ&インクルージョンセンター）

- 2022 「3種類は国立大学初!!大阪大学のトイレ内で生理用品の無償提供を開始」
<https://www.di.osaka-u.ac.jp/2022/03/post-34913/> (2025/11/20 アクセス)

MeW プロジェクト

2025 「Menstrual Wellbeing by/in Social Design」
<https://mew.hus.osaka-u.ac.jp/> (2025/11/20 アクセス)

World-guide.jp

2025 「2025年大阪・関西万博に向けて知っておきたい「万博」のすべて！ | ワールドガイド」
<https://world-guide.jp/articles/detail/10012> (2025/11/20 アクセス)

2025 年日本国際博覧会来場者輸送対策協議会

2024 「大阪・関西万博 来場者輸送具体方針(アクションプラン) 第5版(最終版)」
https://www.expo2025.or.jp/wp/wp-content/uploads/expo2025_raijyoushayusougutaihoujin_05_honpen.pdf (2025/11/22 アクセス)

Barrington, Dani Jennifer, Robinson, Hannah Jayne, Wilson, Emily and Hennegan, Julie

2021 Experiences of Menstruation in High Income Countries: A Systematic Review, Qualitative Evidence Synthesis and Comparison to Low- and Middle-Income Countries. *PloS One* 16(7): e0255001.

Blake, Sarah C., Hopper, Kim J., Nguyen, Angela-Maithy, Maroko, Andrew R., Wyss, Natalie, Sugita, Elli, Fazzioni, Natalia, Cole, Helen V.S., Lomboy, Marian Fe Theresa C., Gregorio, Ernesto R., Polio, Eva, and Sommer, Marni

2025 When the Basic Seems like a Luxury: Menstrual Friendly Public Toilets in Six Cities. *Health & Place* 93: 103436.

Hennegan, Julie, Shannon, Alexandra K., Rubli, Jennifer, Schwab, Kellogg J. and Melendez-Torres, G.J.

2019 Women's and Girls' Experiences of Menstruation in Low- and Middle-Income Countries: A Systematic Review and Qualitative Metasynthesis. *PLOS Medicine* 16(5): e1002803.

JMP (WHO & UNICEF Joint Monitoring Programme)

2024 Progress on drinking water, sanitation and hygiene in schools 2015-2023: special focus on menstrual health.
<https://www.who.int/publications/i/item/9789240097490> (2025/11/20 アクセス)

Nguyen, Angela-Maithy, Maroko, Andrew R., Blake, Sarah, Sugita, Elli, Fazzioni, Natália Helou, Lomboy, Marian Fe Theresa C., Bukenya, Justine, Cole, Helen V.S., Gregorio, Ernesto R., Hopper, Kim J., and Sommer, Marni

2025 Exploring the Availability and Accessibility of Menstrual Friendly Public Toilets (MFPTs) in Urban Spaces: A Global Multi-City Audit Study. *Health & Place* 92: 103412.

Sommer, Marni and Murat, Sahin

2013 Overcoming the Taboo: Advancing the Global Agenda for Menstrual Hygiene Management for Schoolgirls. *American Journal of Public Health* 103(9): 1556-1559.

Wall, L. Lewis

2020 Period Poverty in Public Schools: A Neglected Issue in Adolescent Health. *Journal of Adolescent Health* 67(3):315-316.

Have Public Attitudes Toward Installing Menstrual Products in Toilets Changed After Expo 2025 Osaka, Kansai? : Based on Online Comparative Surveys

Ruolin FU, Satomi HARA, Asako MIURA,
Elli SUGITA

Abstract

During the Expo 2025 Osaka, Kansai (hereinafter referred to as “the Expo”), the Osaka University UNESCO Chair MeW Project (MeW=Menstrual Wellbeing) implemented initiatives such as providing menstrual products in selected toilets within the Expo venue. This study aims to identify the impact of these activities on public attitudes regarding the installation of menstrual products in toilets, in the context of the Expo’s foundational principle of gender equality. Online surveys were conducted with approximately 1,000 participants both immediately after the opening and closure of the Expo (April and October 2025), examining differences in attitudes based on the timing of the survey and whether respondents had visited the Expo. The results indicated an increase in the percentage of people who had seen menstrual product provisions in toilets after the Expo. Additionally, differences were observed between visitors and non-visitors in terms of support for the installation of menstrual products in toilets and the recognition of menstrual hygiene management as related to gender equality. Furthermore, an analysis of posts on X (formerly Twitter) and Threads revealed not only expressions of convenience and reassurance regarding the installations in toilets, but also user-generated posts sharing information about the locations of these facilities. These findings suggest that the installation of menstrual products in Expo toilets may have contributed to a shift in public attitudes, extending beyond the temporal event of Expo.

Keywords : Expo 2025, menstrual products, toilets, gender equality